# 「恵みの森づくりコンソーシアム」設立趣意書

岐阜県では、平成十八年に開催した全国植樹祭を契機に、「植えて、育てる」そして「伐って、利用する」という「生きた森林づくり」を全国に発信し、低コスト林業と環境保全の両立を目指した「新たな森林づくり」を進めてきました。さらに、平成二十二年に海の無い県で初めて開催した「全国豊かな海づくり大会」を通じて、森・川・海のつながりの中で清流を守ることの大切さに気付き自ら行動する、という気運も高まってきています。

岐阜県の豊かな森林は、緑のダムをつくり、地球温暖化を防ぎ、生物多様性の母体となり、多くの資源を産出しています。そして河川をとおして豊かな水と栄養を平地や海に送り届けています。しかし現在、林業活動の停滞や、山村地域の過疎化、高齢化により、手入れ不足の森林が目立つようになってきました。また、人々の「くらし」が森林から離れてしまったことにより、里山林や奥山林の生態系や野生動物の生息状況にも変化の兆しがみられます。森林と人との関わりを今後どうしていくのかが、大きく問われているのです。

これまで、森林をめぐる様々な問題の解決は林業関係者に委ねられ、持続可能な林業経営を行うことで対応してきました。しかし近年、里山林や奥山林など多くの森林は様々な課題を抱えており、林業関係者だけでの対応ではこれらの森林の持続的な保全が難しくなっています。

今後は、岐阜県の多彩な風土が生みだし、先人たちが育んできた美しい森林を子孫に残すために、森林は本来どうあるべきか、どう活用すべきかを今一度考え、県民、企業、都市住民、地方自治体などが共に智恵を絞り、助け合い、身近なところから少しでも事態の打開を図る必要があります。また、それらを通じて、自然と共生する新たな地域づくりに向け、森林に対する新しい価値観と生活様式を創造し発信していくことが、私たちに求められているのではないでしょうか。

平成二十三年三月十一日、巨大な地震と津波で、多くの人命や平穏な暮らしを奪った東日本大震災は、人々の価値観や人生観をも大きく変えるものでした。自然が人間に突きつけたものは何だったのでしょうか。私たちに出来ることは限られていますが、危機感を共有し結束することで何かが生まれると思います。

私たちは、岐阜県から全国に向けて、世界に向けて、自然と共生した新しい森林の活用とビジネスモデルを発信していくため、ここに、「恵みの森づくりコンソーシアム」を立ち上げ、以下の取り組みを行います。

一　主旨を同じくする会員・協力機関を広く募り、会員間の交流・ネットワークづくりを進めます。

一　里山や奥山を中心に「環境モデル林」を設定し、環境保全を重視した整備・活用のための研究を行い、実践します。

一　森林環境に関して林業の枠を超えた討論会・交流会を開催し観光・商工など異業種とタイアップした新たな森林の活用方法の検討・実践を行います。

一　これからの新たな国づくりに向けて、森林との接し方や森林と共生した生活のあり方を模索し提案します。

つきましては、この主旨に賛同いただき、本コンソーシアムの参加、運営、諸事業に対する、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十三年五月二十一日

発起人代表　オークヴィレッジ株式会社　代表　福井正

社団法人　岐阜県観光連盟　会長　尾関尚司

一般社団法人モア・トゥリーズ事務局長　水谷伸吉

合同会社 森のなりわい研究所　代表　佐藤栄一

顧問（立会人）　竹下景子